

Ⅲ 評価項目ごとの自己評価

基準 1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

1-1. 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されていること。

(1) 事実の説明（現状）

1-1-① 建学の精神、大学の基本理念が学内外に示されているか。

建学の精神・大学の基本理念が組織的に検討され、現在の教育研究の理念として策定されたのは平成 8（1996）年の自己点検評価実施以降である。評価結果は「南九州大学の教育と研究：南九州大学自己点検報告書」として同年 6 月に刊行された。報告書は文部科学省、他大学、関係諸機関及び本学教職員に配付した。

その他の冊子体では、学生便覧は平成 17（2005）年、キャンパスガイドは平成 18（2006）年、受験生及び関係者に配付するデータブックには平成 15（2003）年から掲載している。また、冊子体以外のメディアでは、ホームページのトップページに掲載し、学内外に周知している。

(2) 1-1 の自己評価

建学の精神は、元来大学創立時の志が脈々と受け継がれているイメージがあるが、本学では時代とともに変遷している実情がある。第 1 回自己点検評価の実施までは、変遷状況の把握と内容の吟味も十分になされていなかったが、点検の結果「教育研究の理念」として公表することになった。報告書は建学の精神を教育研究の理念と位置づけ、次のように記述している。

「このように本学には確固たる教育の理念というものは存在しないで経過してきたといえるのであるが、このことは本学に限らず戦後とくに高度経済成長期に設立されたわが国の私立大学の多くにいえることあり、文部省によって設立が推進された一方で、教育課程の細部に渡って大幅に規制され、国立大学の補完的役割を担わされてきたことの反映ともいえよう。しかし、平成 3（1991）年の大学設置基準の大綱化以後は、18 歳人口の減少化傾向を背景として、大学間の生存競争が現実の問題となり、改めて各大学の存在意義が問われる事態となってきた。すなわちここにきて、教育の理念の再検討は極めて重要な意味をもつようになったのである。ここでまた屋上屋を架す類の教育の理念を提唱することは容易だが、創立以来 29 年経過した現在、そのような空疎なものにはもはや許されない。29 年間われわれが必死で築いてきた実績に裏付けられたものが要求されるのである。そのように考えるときわれわれが自ずと肝に銘じて日夜教育研究に取り組んできた心構えというものをもって、現在の本学の教育研究の理念と考えるのが自然ではなかろうか。」

この自己点検以来「食・緑・環境」は教職員には馴染み深い標語となっている。最近では印刷物や Web を利用し、新入生あるいは新任教職員オリエンテーションで説明するなど、積極的に周知するように努めているが、理念の具体的な説明はまだ不十分な点がある。

(3) 1-1の改善・向上方策（将来計画）

本学ではキャンパスガイド等のPR誌、ポスター及びWebで教育研究の理念を積極的に学内外に周知している。しかし、今後はロゴマークにもイメージされる「食・緑・環境」に加えて本学の人間形成教育の重要な側面である「創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成する」ことも併せて強調し学内外に周知する。

1-2. 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

(1) 事実の説明（現状）

1-2-① 建学の精神、大学の基本理念を踏まえた、大学の使命・目的が明確に定められているか。

大学の使命・目的は建学の精神を踏まえた上で、「南九州大学学則」第1条に「本学は、教育基本法の基に、建学の精神にのっとり、良識ある社会人としての教養と基礎学力の養成に努めるとともに、それぞれの専門学術についての理論及びその応用を教授研究し、国際的視野を広め、豊かな個性を持つ社会の有為な形成者として必要な資質を養成することを目的とする。」と定めている。

1-2-② 大学の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。

学則は学生便覧に掲載されている。学生便覧は毎年度新入生及び新任教職員に配付し、それぞれオリエンテーションを利用し説明をしている。新入生以外の在在学生には学則変更部分で学生に関係する部分を掲示している。

1-2-③ 大学の使命・目的が学外に公表されているか。

学生便覧はほぼ学内利用に止まり、特に要望があるとき以外は積極的学外に配付していない。学外には大学の使命・目的を包含し、より具体的に表現している教育研究の理念を主として公表している。

(2) 1-2の自己評価

本学の教育研究の理念は多様な形態で公表周知されているが、学則は学生便覧のほか「南九州学園インフォメーション」として教職員専用Webシステムに公開されているのみで、学外への周知が不十分である。

(3) 1-2の改善・向上方策（将来計画）

学則としてだけでなく、学内外に積極的に公表する手段を講じる。また、使命・目的を達成するスローガンとして、3つの使命、知の創造（研究）、知の伝達（教育）、知の普及（社会貢献）を掲げ、Web等を利用して教育研究成果を積極的に学内外に周知する。

【基準 1 の自己評価】

本学の教育研究の理念「食・緑・環境」をイメージ化するため平成 13（2001）年シンボルマークを作成した。マーク決定に当たっては、本学の学生、教員に計 2 回のアンケートを実施、1 回目は候補である 8 つのデザイン案の中から、大学のイメージにふさわしい図案を調査。1 回目の結果を元に 2 回目では候補を 5 つに絞り込み、色、バランス、訴求性などを更に検討した。マーク選定は学内教職員に公募したため、理念の周知に役立った。

マークは「環境と生命の調和」をテーマに、全体の円形とブルーは青く輝く地球を、グリーンは自然の息吹（新芽）をイメージ化したものに決定した。現在マークは本学 PR 用の冊子、教職員の名刺等に印刷している。また、ホームページにマーク選定のいきさつ、シンボルの意味を掲載し、学内外への周知に役立っている。

大学の使命・目的は学則として学生便覧に掲載されているのみで、学外に対する周知が十分でない。

【基準 1 の改善・向上方策（将来計画）】

教育研究の理念、学部・学科の教育目標だけでなく大学の使命・目的も積極的に学内外に周知する。

本学は創立 40 周年を迎え、平成 19（2007）年 10 月に記念事業を計画している。40 周年は節目であり、本学の使命・目的を再考する機会と捉えている。教職員の認識を新たにし、そこで得られた成果を学内外に周知する。また、日本語だけでなく外国語での周知も検討する。